

地 域 再 生 計 画

- 1 地域再生計画の名称
「なるとうブランド」農業活性計画

- 2 地域再生計画の作成主体の名称
千葉県山武郡成東町

- 3 地域再生計画の区域
千葉県山武郡成東町の全域

- 4 地域再生計画の目標

成東町は、千葉県の東部、九十九里平野の中央に位置し、人口 24,703 人(平成 17 年 4 月 1 日現在)、面積 47.02 平方キロメートルで、町の北東を木戸川、町の南西を作田川が流れている。

町の主な産業は、農業と観光である。農業では太平洋の影響を受け、温暖多湿な海洋性気候であり北西部には森林・畑地があり、木戸川流域・作田川流域では水田が広がり上質の米を生産し、ネギ・ニラ・イチゴ・ダイコン等の野菜の生産も盛んに行われている。観光では、千葉県内有数のイチゴの産地で、農業集落排水事業を行う大富地区は通称「苺街道(ストロベリーロード)」と呼ばれる成東町観光苺組合所属のいちご直売所が最も多く立ち並ぶ地区にあたり、毎年 1 月 5 日から 5 月中旬までたくさんの方が観光バス等で「いちご狩り」に訪れている。また、海水浴シーズンには千葉県下屈指の長い海岸線に本須賀、小松、白幡・井之内の 3 つの海水浴場を開設し、白く広大なビーチでは多彩なイベントも繰り広げられ、シーズンには家族そろって、思い思いの海水浴を楽しむことができる。

しかし、この恵まれた自然環境も新興住宅地の増加および地域住民の生活水準向上、農業生産様式の変貌等、農業及び農村を取り巻く状況の変化により生活排水が増加し、水質の悪化が進んでおり、自然環境及び農作物への影響が懸念される。

このような状況を踏まえ、町の両側に流れる木戸川・作田川の両河川の水質と環境を保全し、清潔な河川として維持することを目的として、流域市町村等から構成される「美しい木戸川を守る会」、「美しい作田川を守る会」に所属し各事業を行っている。事業内容としては、年数回の水質検査・川魚の放流などの事業を行い、ゴミ不法投棄防止対策・河川流域の景観保持にも努めている。また、住民の意識の高揚を図るため、水質浄化及び環境保全に係る啓蒙活動を行い、河川の近くに居住している方へ水質モニターとして委嘱し、河川の調査・状況確認を行っているが、水質の向上までは至っていない状況である。

このため、汚水処理施設を一層促進することにより、両河川の水質を向上させる。また、両河川は農業用用水として、田畑に使用するため、水質の改善が

急務である。

さらには、農業集落排水の汚泥循環利用を目指し、施設から発生する汚泥をコンポスト化して農地に還元する。農業者に対し有機資源の資源循環をPRし、積極的に再生有機肥料を使用した土づくりを呼びかける。また、町ではエコファーマーの認証取得を勧めている。エコファーマーとは、たい肥等による土づくりと化学肥料・農薬の低減を一体的に行う生産方式導入計画を作成し、県知事から認定を受けた農業者又は農業生産法人のことである。前述した成東町観光苺組合では、平成14年12月に20名の組合員全員が認定取得し、有機肥料主体の施肥を行うとともに土壌診断に基づく施肥管理を行うなど減化学肥料に積極的に取り組み、害虫駆除には天敵を利用し減農薬栽培を行っている。エコファーマーと再生資源を生かした有機肥料を組み合わせることにより、消費者ニーズに応じた「おいしさ」と「安全」を追求した農作物を育成する。

その農作物を多くの消費者へ届けるため、都心に近い立地条件を生かし、PR活動を積極的に行うことで流通・販売を促進するとともに、地元の豊かな自然の恵みを地元で味わい消費する地産地消の促進を図り生産者と消費者が互いに顔が見える距離で「おいしさ」と「安全」を前面に打出したPR活動を行い、「なるとうブランド」づくりを推進し、農村地域の活性化を目指す。

（目標1）

污水处理施設整備の促進(污水处理人口普及率を 43.0%から 55.0%に向上)

今後、浄化槽を5年間で250基設置し、污水处理人口の普及率を43.0%から46.1%に向上する。また、大富地区において農業集落排水施設へ接続する宅内マスをも5年間で335ヶ所設置することにより、污水处理人口の普及率を55.0%に向上する。

（目標2）

水質の改善（BODを2.35 mg/ℓから2.00 mg/ℓ以下へ）

污水处理施設整備を促進し、污水处理人口普及率を向上させることにより、BODを生活環境の保全に関する環境基準値2.00 mg/ℓ以下へ向上させることを併せて目標とする。

5 目標を達成するために行う事業

5 - 1 全体の概要

農業集落排水事業は、農村地域における資源循環の促進を図りつつ、農業用排水の水質保全、農業用排水施設の機能維持または農村生活環境の改善を図り、併せて公共用水域の水質保全に寄与するため、農業集落におけるし尿、生活雑排水等の污水、汚泥を処理する施設を整備し、もって生産性の

高い農業の実現、活力ある農村社会の形成および循環型社会の構築に資することを目的として実施する。

浄化槽設置整備事業は、生活環境の改善及び河川等の水質保全を進めるべく、し尿及び生活雑排水を処理する浄化槽を普及促進するため、浄化槽の設置者に補助金を支給するものである。

この2つの施設整備を地域再生計画に位置づけ、事業を実施して行くことにより、汚水処理人口普及率を向上させ、水質の保全・向上を目指すことで、目標に掲げた農作物の「なるとうブランド」づくりを推進する。

5 - 2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

汚水処理施設整備交付金を活用する事業

[事業主体]

- ・いずれも成東町

[施設の種類]

- ・農業集落排水施設、浄化槽

[事業区域]

- ・農業集落排水施設 成東町大富地区事業区域
- ・浄化槽 成東町全域（大富地区農業集落排水事業区域を除く）

[事業期間]

- ・農業集落排水施設 平成17年度～21年度
- ・浄化槽 平成17年度～21年度

[整備量]

- ・農業集落排水施設 管路 75～200 8.8 km(国費)、1.8 km(単独)
処理場 1ヶ所(2,200人槽)
- ・浄化槽(個人設置型) 5人槽 150基
7人槽 100基

[事業費]

- ・農業集落排水施設 2,172,300 千円
(うち、単独 223,000 千円)
(うち、国費 974,650 千円)
- ・浄化槽(個人設置型) 60,000 千円
(うち、国費 20,000 千円)
- ・合計 2,232,300 千円
(うち、単独 223,000 千円)
(うち、国費 994,650 千円)

5 - 3 その他の事業

該当なし

6 計画期間

平成 17 年度～21 年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

計画終了後に、4 に示す数値目標に照らし、町が状況を調査、評価し、公表する。また、大富地区においては、維持管理組合を設立する。

なお、整備された污水处理施設については、水質検査、維持管理等が適切に行われていることについて、施設管理者と異なる第三者が行った水質検査等を維持管理組合において把握し、必要に応じて町に対して適切な処置をとるよう提言する。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし